

中部圏（東海 3 県・北陸 3 県・中部 5 県・中部 9 県）

の景気動向

— 2016 年 11 月分 —

・ 東海 3 県の基調判断

景気の現状は、**足踏み**している。（前月から据え置き ➡）

景気の先行きについては、**足踏み**することが見込まれる。

（前月から下方改定 ⬇）

・ 北陸 3 県の基調判断

景気の現状は、**上方への局面変化**。（前月から上方改定 ⬆）

景気の先行きについては、**改善**が見込まれる。（前月から上方改定 ⬆）

・ 中部 5 県の基調判断

景気の現状は、**足踏み**している。（前月から据え置き ➡）

景気の先行きについては、**足踏み**することが見込まれる。

（前月から据え置き ➡）

・ 中部 9 県の基調判断

景気の現状は、**足踏み**している。（前月から据え置き ➡）

景気の先行きについては、**足踏み**することが見込まれる。

（前月から据え置き ➡）

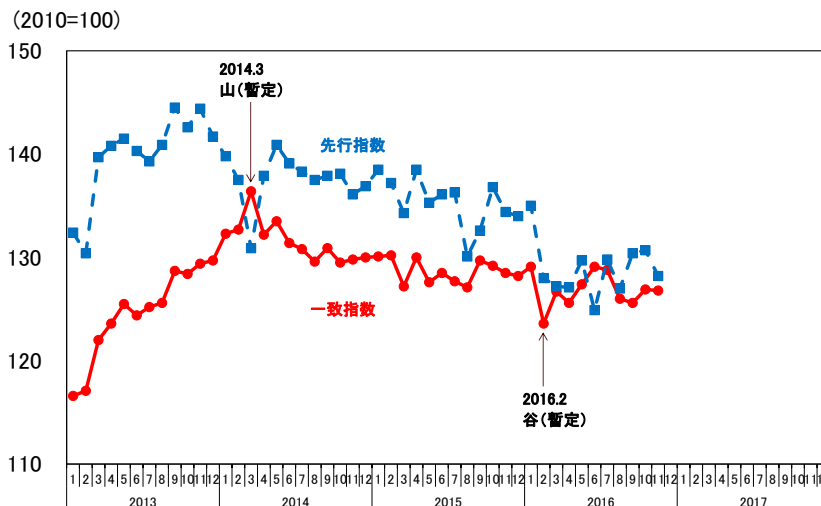
※ 本資料における東海 3 県とは、岐阜県、愛知県、三重県を指す。北陸 3 県とは、富山県、石川県、福井県を指す。
中部 5 県とは、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県を指す。中部 9 県とは、富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県を指す。

最近の東海3県の景気動向について (2016年11月時点)

1. 基調判断

景気の現状は、**足踏み**している。
景気の先行きについては、**足踏み**することが見込まれる。

2. 中部圏(東海3県)景気動向指数の推移^{1, 2}



	2015		2016									
	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
先行指数	134.0	135.0	128.0	127.2	127.1	129.7	124.9	129.8	127.0	130.4	130.7	128.2
一致指数	128.2	129.1	123.6	126.7	125.6	127.4	129.1	128.8	126.0	125.6	126.9	126.8

CI一致指数前月差		-0.1
指標別の寄与度		寄与度
(消費面)		
耐久消費財出荷指数		-0.19
百貨店・スーパー販売額(既存店)(前年同月比)		0.50
(投資面)		
投資財出荷指数		0.21
(生産面)		
生産財出荷指数		0.18
生産指数(鉱工業)		0.05
(雇用面)		
有効求人倍率		-0.83
所定外労働時間(調査産業計)		0.02

CI先行指数前月差		-2.5
指標別の寄与度		寄与度
(消費面・マインド面)		
耐久消費財出荷指数 愛知県		-0.98
景気ウォッチャー調査(先行き、東海)		-0.07
中部圏の景況感(見通し)		0.06
(投資面)		
新設住宅着工床面積(貸家)		0.31
(生産面)		
鉱工業用生産財生産指数 三重県		0.36
(雇用面)		
新規求人人数		-3.16
(金融面)		
国内銀行貸出金残高(前年同月比)		0.76

寄与度はCIの前月差に対する各指標の影響の大きさを表している。寄与度を合計すると、前月差と概ね等しくなる。

¹ 景気動向指数CIは、景気変動の大きさやテンポを測定することを主な目的とする指数であり、幅広い経済部門から選定された複数の代表的な経済指標の変化率を合成することにより得られる。算出方法の詳細については、内閣府「景気動向指数の利用の手引」(<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/di3.html>)を参照。

² 中部圏(東海3県)景気基準日付の正式な設定は、十分なデータの蓄積を待ったうえで、ヒストリカルDIに基づき、中部圏景気動向指数有識者会議での議論を経て行うこととしている。なお、暫定の山及び谷は今後データの蓄積にともない変化する可能性があることに留意されたい。

3. 景気の概況

【現状】	【先行き】
<p>(基調判断) 2016年1月に愛知県で発生した自動車部品工場の事故や4月に発生した熊本地震からの挽回生産を背景とした東海3県の景気拡張の動きが、足踏みしている。雇用面において伸びが弱まっていることが背景にある。一方で、生産面においては堅調に推移している。</p>	<p>(基調判断) 東海3県の景気は足踏みすることが見込まれるものの、今後、足元におけるマインド面の改善が消費や投資の拡大につながり、為替相場における円安ドル高傾向が持続すれば、改善に向かうであろう。なお、米新大統領の就任に伴う海外経済の不確実性やマーケットの変動には留意する必要がある。</p>
<p style="text-align: center;">当月分の動向</p> <p>(景況) 中部圏（東海3県）景気動向指数（CI一致指数）11月分は、前月差-0.1と2か月ぶりの下落となった。</p>	<p style="text-align: center;">当月分の動向</p> <p>(景況) 中部圏（東海3県）景気動向指数（CI先行指数）11月分は、前月差-2.5と3か月ぶりの下落となった。</p>
<p>(消費面) 耐久消費財出荷指数がマイナスに寄与した。愛知県がマイナスに寄与している。一方で、百貨店・スーパー販売額（既存店）（前年同月比）はプラスに寄与した。3県全てがプラスに寄与している。</p>	<p>(消費面・マインド面) 愛知県の耐久消費財出荷指数が大きくマイナスに寄与した。また、景気ウォッチャー調査（先行き、東海）もマイナスに寄与した。一方で、中部圏の景況感（見通し）はプラスに寄与した。</p>
<p>(投資面) 投資財出荷指数がプラスに寄与し、三重県が寄与している。</p>	<p>(投資面) 新設住宅着工床面積（貸家）がプラスに寄与し、愛知県と岐阜県が大きく寄与している。</p>
<p>(生産面) 生産財出荷指数がプラスに寄与した。三重県がプラスに寄与している。また、生産指数（鉱工業）もプラスに寄与した。三重県がプラスに寄与している。</p>	<p>(生産面) 三重県の鉱工業用生産財生産指数がプラスに寄与した。</p>
<p>(雇用面) 有効求人倍率が大きくマイナスに寄与し、3県全てが寄与している。</p>	<p>(雇用面) 新規求人数が大きくマイナスに寄与し、3県全てが大きく寄与している。</p>
	<p>(金融面) 国内銀行貸出金残高（前年同月比）が大きくプラスに寄与し、三重県が大きく寄与している。</p>

参考：内閣府 月例経済報告（平成29年1月）の基調判断

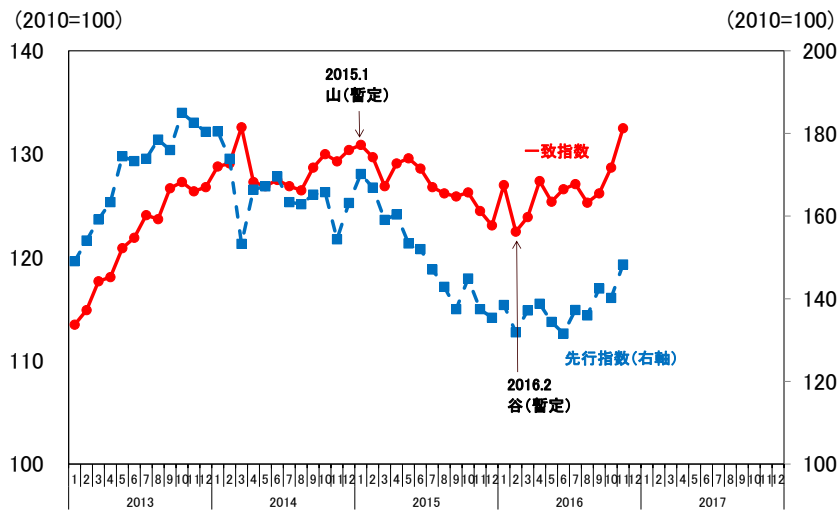
「景気は、一部に改善の遅れもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。」

最近の北陸3県の景気動向について（2016年11月時点）

1. 基調判断

景気の現状は、**上方への局面変化**。
景気の先行きについては、**改善**が見込まれる。

2. 中部圏（北陸3県）景気動向指数の推移³



	2016											
	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
先行指数	135.4	138.5	131.9	137.2	138.8	134.4	131.6	137.3	136.0	142.5	140.2	148.3
一致指数	123.1	127.0	122.5	123.9	127.4	125.4	126.6	127.1	125.3	126.2	128.7	132.5

CI一致指数前月差		3.8
指標別の寄与度		寄与度
(消費面)		
百貨店・スーパー販売額(既存店)(前年同月比)		1.21
耐久消費財出荷指数		0.09
(投資面)		
投資財出荷指数		0.50
(生産面)		
生産指数(鉱工業)		0.98
生産財出荷指数		0.89
(雇用面)		
有効求人倍率		0.10
所定外労働時間(調査産業計)		0.05

CI先行指数前月差		8.1
指標別の寄与度		寄与度
(消費面・マインド面)		
景気ウォッチャー調査(先行き、北陸)		1.01
北陸短観(先行き)		-0.30
(投資面)		
新設住宅着工床面積(貸家)		3.21
(生産面)		
生産指数(鉱工業) 石川県		1.11
(雇用面)		
新規求人数		-0.91
(金融面)		
国内銀行貸出金残高(前年同月比)		3.91

寄与度はCIの前月差に対する各指標の影響の大きさを表している。寄与度を合計すると、前月差と概ね等しくなる。

³ 中部圏（北陸3県）景気基準日付の正式な設定は、十分なデータの蓄積を待ったうえで、ヒストリカルDIに基づき、中部圏景気動向指数有識者会議での議論を経て行うこととしている。なお、暫定の山及び谷は今後データの蓄積にともない変化する可能性があることに留意されたい。

3. 景気の概況

【現状】	【先行き】
<p>(基調判断) 北陸3県の景気が拡張局面にあることを確認できる。雇用面において有効求人倍率が一段と上昇し、所定外労働時間も上昇傾向が続いている。また、生産面においてもこのところ堅調に推移している。</p>	<p>(基調判断) 今後、雇用環境の改善が所得の上昇、消費の拡大につながれば、北陸3県の景気は着実に改善していくことが見込まれる。なお、中国・アジアを中心とした海外経済の不確実性や人手不足が企業活動に与える影響には留意する必要がある。</p>
<p style="text-align: center;">当月分の動向</p> <p>(景況) 中部圏(北陸3県)景気動向指数(CI一致指数)11月分は、前月差+3.8と3か月連続の上昇となった。</p>	<p style="text-align: center;">当月分の動向</p> <p>(景況) 中部圏(北陸3県)景気動向指数(CI先行き指数)11月分は、前月差+8.1と2か月ぶりの上昇となった。</p>
<p>(消費面) 百貨店・スーパー販売額(既存店)(前年同月比)が大きくプラスに寄与した。3県全てがプラスに寄与している。 また、耐久消費財出荷指数もプラスに寄与した。福井県と石川県がプラスに寄与している。</p>	<p>(消費面・マインド面) 景気ウォッチャー調査(先行き、北陸)が大きくプラスに寄与した。 一方で、北陸短観(先行き)はマイナスに寄与した。</p>
<p>(投資面) 投資財出荷指数がプラスに寄与し、3県全てが寄与している。</p>	<p>(投資面) 新設住宅着工床面積(貸家)が大きくプラスに寄与し、3県全てが大きく寄与している。</p>
<p>(生産面) 生産指数(鉱工業)が大きくプラスに寄与した。3県全てがプラスに寄与している。 また、生産財出荷指数もプラスに寄与した。3県全てがプラスに寄与している。</p>	<p>(生産面) 石川県の生産指数(鉱工業)が大きくプラスに寄与した。</p>
<p>(雇用面) 有効求人倍率がプラスに寄与した。石川県と富山県がプラスに寄与している。</p>	<p>(雇用面) 新規求人数がマイナスに寄与し、福井県が大きく寄与している。</p>
	<p>(金融面) 国内銀行貸出金残高(前年同月比)が大きくプラスに寄与し、3県全てが大きく寄与している。</p>

参考：内閣府 月例経済報告(平成29年1月)の基調判断

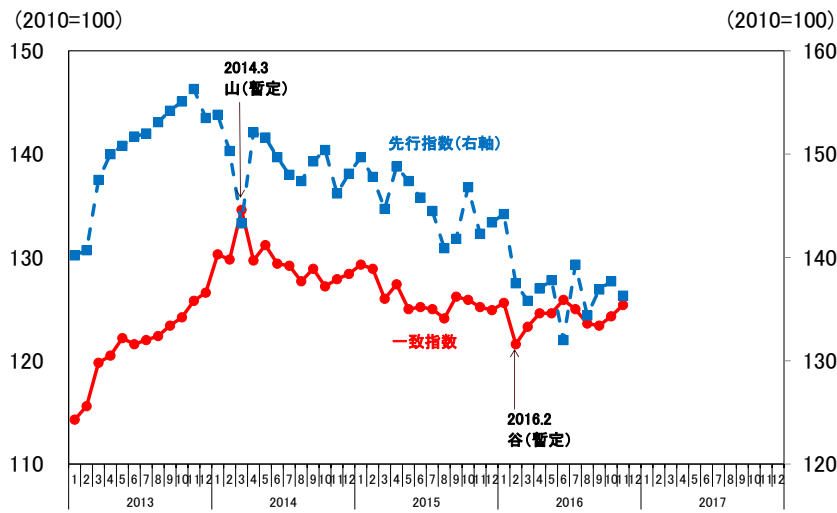
「景気は、一部に改善の遅れもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。」

最近の中部5県の景気動向について（2016年11月時点）

1. 基調判断

景気の現状は、**足踏み**している。
景気の先行きについては、**足踏み**することが見込まれる。

2. 中部圏（中部5県）景気動向指数の推移⁴



	2015					2016						
	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
先行指数	143.4	144.2	137.5	135.8	137.0	137.8	132.0	139.3	134.4	136.9	137.7	136.3
一致指数	124.9	125.6	121.6	123.3	124.6	124.6	125.9	125.0	123.6	123.4	124.3	125.4

CI一致指数前月差	1.1
指標別の寄与度	寄与度
(消費面)	
百貨店・スーパー販売額(既存店)(前年同月比)	0.43
耐久消費財出荷指数	0.14
(投資面)	
投資財出荷指数	0.05
(生産面)	
生産財出荷指数	0.48
生産指数(鉱工業)	0.35
(雇用面)	
有効求人倍率	-0.33
所定外労働時間(調査産業計)	-0.03

CI先行指数前月差	-1.4
指標別の寄与度	寄与度
(消費面・マインド面)	
耐久消費財出荷指数 愛知県	-0.75
景気ウォッチャー調査(先行き、東海)	-0.06
中部圏の景況感(見通し)	0.04
(投資面)	
新設住宅着工床面積(貸家)	-0.51
(生産面)	
鉱工業用生産財生産指数 三重県	0.28
(雇用面)	
新規求人数	-2.94
(金融面)	
国内銀行貸出金残高(前年同月比)	2.40

寄与度はCIの前月差に対する各指標の影響の大きさを表している。寄与度を合計すると、前月差と概ね等しくなる。

⁴ 中部圏（中部5県）景気基準日付の正式な設定は、十分なデータの蓄積を待ったうえで、ヒストリカルDIに基づき、中部圏景気動向指数有識者会議での議論を経て行うこととしている。なお、暫定の山及び谷は今後データの蓄積にともない変化する可能性があることに留意されたい。

3. 景気の概況

【現状】	【先行き】
<p>(基調判断) 2016年1月に愛知県で発生した自動車部品工場の事故や4月に発生した熊本地震からの挽回生産を背景とした中部5県の景気拡張の動きが、足踏みしている。雇用面において伸びが弱まっていることが背景にある。一方で、生産面においては堅調に推移している。</p>	<p>(基調判断) 中部5県の景気は足踏みすることが見込まれるものの、今後、足元におけるマインド面の改善が消費や投資の拡大につながり、為替相場における円安ドル高傾向が持続すれば、改善に向かうであろう。なお、米新大統領の就任に伴う海外経済の不確実性やマーケットの変動には留意する必要がある。</p>
<p style="text-align: center;">当月分の動向</p> <p>(景況) 中部圏（中部5県）景気動向指数（CI一致指数）11月分は、前月差+1.1と2か月連続の上昇となった。</p>	<p style="text-align: center;">当月分の動向</p> <p>(景況) 中部圏（中部5県）景気動向指数（CI先行指数）11月分は、前月差-1.4と3か月ぶりの下落となった。</p>
<p>(消費面) 百貨店・スーパー販売額(既存店)（前年同月比）がプラスに寄与した。長野県を除く4県がプラスに寄与している。また、耐久消費財出荷指数もプラスに寄与した。静岡県と三重県がプラスに寄与している。</p>	<p>(消費面・マインド面) 愛知県の耐久消費財出荷指数が大きくマイナスに寄与した。景気ウォッチャー調査(先行き、東海)もマイナスに寄与した。一方で、中部圏の景況感(見通し)はプラスに寄与した。</p>
<p>(投資面) 投資財出荷指数がプラスに寄与し、長野県が寄与している。</p>	<p>(投資面) 新設住宅着工床面積(貸家)がマイナスに寄与し、長野県と三重県が大きく寄与している。</p>
<p>(生産面) 生産財出荷指数がプラスに寄与した。静岡県、長野県、三重県がプラスに寄与している。また、生産指数(鉱工業)もプラスに寄与した。静岡県、三重県、長野県がプラスに寄与している。</p>	<p>(生産面) 三重県の鉱工業用生産財生産指数がプラスに寄与した。</p>
<p>(雇用面) 有効求人倍率がマイナスに寄与した。三重県と岐阜県がマイナスに寄与している。また、所定外労働時間(調査産業計)もマイナスに寄与した。静岡県がマイナスに寄与している。</p>	<p>(雇用面) 新規求人数が大きくマイナスに寄与し、5県全てが寄与している。</p>
<p>(金融面) 国内銀行貸出金残高(前年同月比)が大きくプラスに寄与し、長野県と三重県が大きく寄与している。</p>	<p>(金融面) 国内銀行貸出金残高(前年同月比)が大きくプラスに寄与し、長野県と三重県が大きく寄与している。</p>

参考：内閣府 月例経済報告（平成29年1月）の基調判断

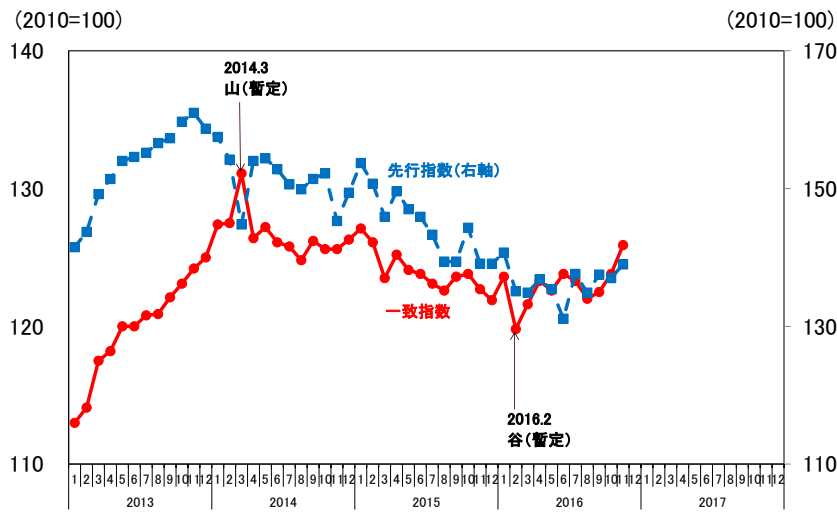
「景気は、一部に改善の遅れもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。」

最近の中部9県の景気動向について（2016年11月時点）

1. 基調判断

景気の現状は、**足踏み**している。
景気の先行きについては、**足踏み**することが見込まれる。

2. 中部圏（中部9県）景気動向指数の推移⁵



	2016											
	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
先行指数	139.1	140.7	135.1	134.9	136.8	135.4	131.1	137.6	134.9	137.5	137.0	139.0
一致指数	121.9	123.6	119.8	121.6	123.3	122.6	123.8	123.3	122.0	122.5	123.8	125.9

CI一致指数前月差		2.1
指標別の寄与度		寄与度
(消費面)		
百貨店・スーパー販売額(既存店)(前年同月比)		0.65
耐久消費財出荷指数		0.04
(投資面)		
投資財出荷指数		0.33
(生産面)		
生産財出荷指数		0.63
生産指数(鉱工業)		0.55
(雇用面)		
有効求人倍率		-0.12
所定外労働時間(調査産業計)		-0.01

CI先行指数前月差		2.0
指標別の寄与度		寄与度
(消費面・マインド面)		
景気ウォッチャー調査(先行き、北陸)		0.25
中部圏の景況感(見通し)		0.03
景気ウォッチャー調査(先行き、東海)		-0.03
北陸短観(先行き)		-0.08
耐久消費財出荷指数 愛知県		-0.45
(投資面)		
新設住宅着工床面積(貸家)		0.74
(生産面)		
生産指数(鉱工業) 石川県		0.29
鉱工業用生産財生産指数 三重県		0.17
(雇用面)		
新規求人人数		-1.40
(金融面)		
国内銀行貸出金残高(前年同月比)		2.49

寄与度はCIの前月差に対する各指標の影響の大きさを表している。寄与度を合計すると、前月差と概ね等しくなる。

⁵ 中部圏（中部9県）景気基準日付の正式な設定は、十分なデータの蓄積を待ったうえで、ヒストリカルDIに基づき、中部圏景気動向指数有識者会議での議論を経て行うこととしている。なお、暫定の山及び谷は今後データの蓄積にともない変化する可能性があることに留意されたい。

3. 景気の概況

【現状】	【先行き】
<p>(基調判断) 2016年1月に愛知県で発生した自動車部品工場の事故や4月に発生した熊本地震からの挽回生産を背景とした中部9県の景気拡張の動きが、足踏みしている。雇用面において伸びが弱まっていることが背景にある。一方で、生産面においては堅調に推移している。</p> <p style="text-align: center;">当月分の動向</p> <p>(景況) 中部圏(中部9県)景気動向指数(CI一致指数)11月分は、前月差+2.1と3か月連続の上昇となった。</p> <p>(消費面) 百貨店・スーパー販売額(既存店)(前年同月比)が大きくプラスに寄与した。長野県を除く8県がプラスに寄与している。また、耐久消費財出荷指数もプラスに寄与した。静岡県と福井県がプラスに寄与している。</p> <p>(投資面) 投資財出荷指数がプラスに寄与し、長野県と滋賀県が寄与している。</p> <p>(生産面) 生産財出荷指数がプラスに寄与した。静岡県と富山県がプラスに寄与している。また、生産指数(鉱工業)もプラスに寄与した。福井県がプラスに寄与している。</p> <p>(雇用面) 有効求人倍率がマイナスに寄与した。福井県と三重県がマイナスに寄与している。また、所定外労働時間(調査産業計)もマイナスに寄与した。静岡県がマイナスに寄与している。</p>	<p>(基調判断) 中部9県の景気は足踏みすることが見込まれるものの、今後、足元におけるマインド面の改善や雇用環境の改善が消費や投資の拡大につながれば、改善に向かうであろう。なお、米国および中国・アジアなど海外経済の不確実性、人手不足が企業活動に与える影響に留意する必要がある。</p> <p style="text-align: center;">当月分の動向</p> <p>(景況) 中部圏(中部9県)景気動向指数(CI先行指数)11月分は、前月差+2.0と2か月ぶりの上昇となった。</p> <p>(消費面・マインド面) 景気ウォッチャー調査(先行き、北陸)がプラス、景気ウォッチャー調査(先行き、東海)がマイナスに寄与した。中部圏の景況感(見通し)がプラスに寄与した。一方で、愛知県の耐久消費財出荷指数は大きくマイナスに寄与した。また、北陸短観(先行き)もマイナスに寄与した。</p> <p>(投資面) 新設住宅着工床面積(貸家)が大きくプラスに寄与し、石川県が大きく寄与している。</p> <p>(生産面) 石川県の生産指数(鉱工業)がプラスに寄与した。三重県の鉱工業用生産財生産指数がプラスに寄与した。</p> <p>(雇用面) 新規求人数が大きくマイナスに寄与し、福井県、三重県、岐阜県が大きく寄与している。</p> <p>(金融面) 国内銀行貸出金残高(前年同月比)が大きくプラスに寄与し、長野県が大きく寄与している。</p>

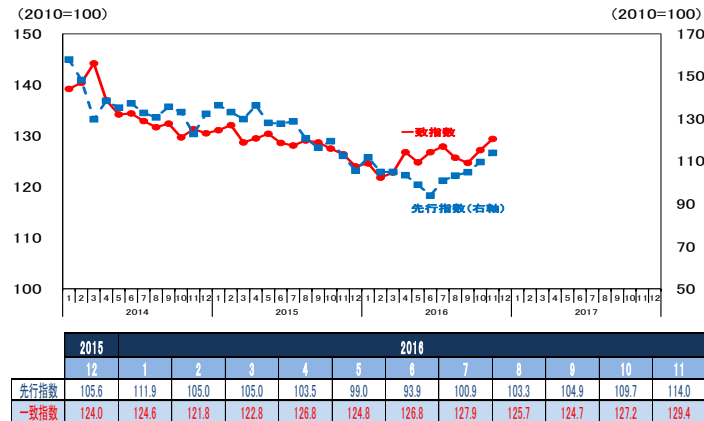
参考：内閣府 月例経済報告(平成29年1月)の基調判断

「景気は、一部に改善の遅れもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。」

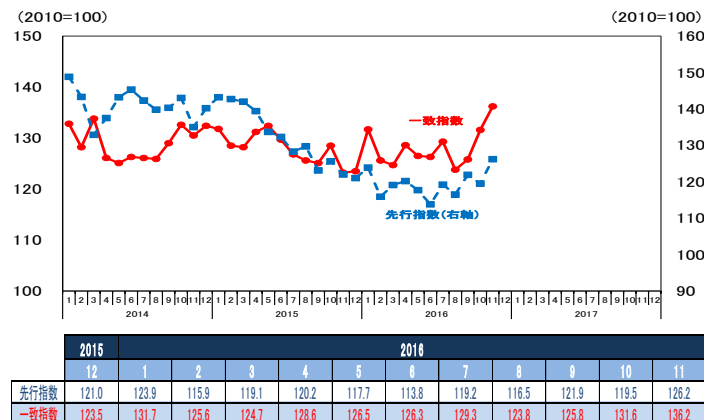
各県版景気動向指数

※ 各県版景気動向指数については、中部圏（中部9県、中部5県、東海3県、北陸3県）景気動向指数より派生的に試算されるものであり、参考程度に留められるべきものであることに留意する必要がある。

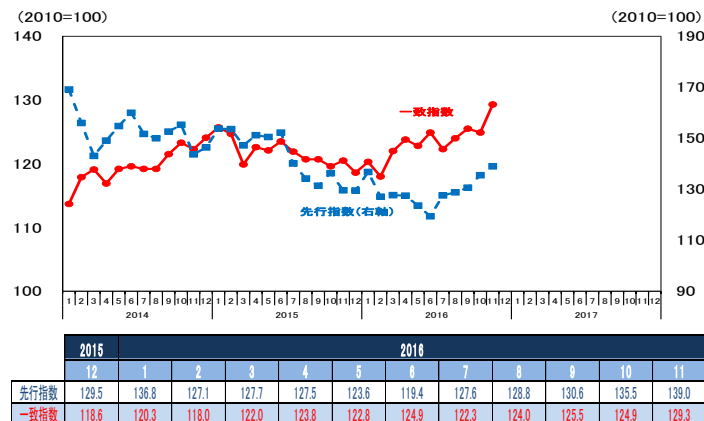
中部圏（富山県）景気動向指数の推移



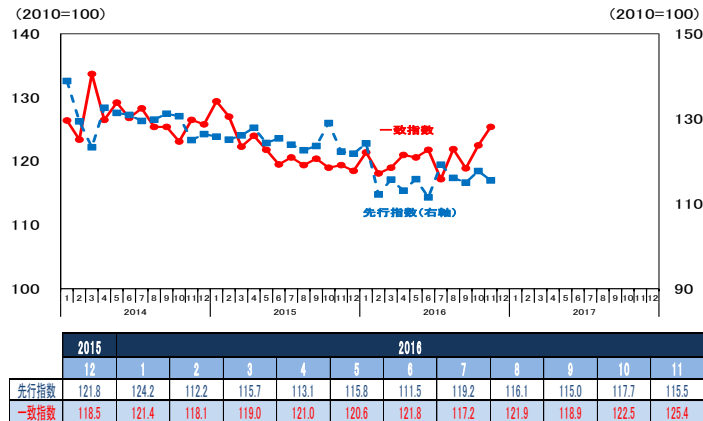
中部圏（石川県）景気動向指数の推移



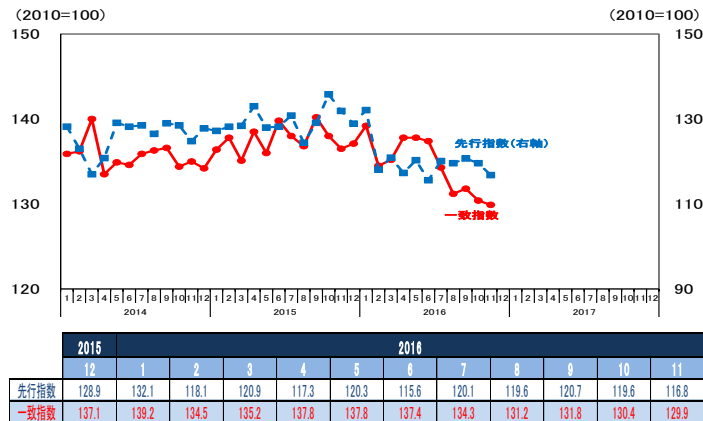
中部圏（福井県）景気動向指数の推移



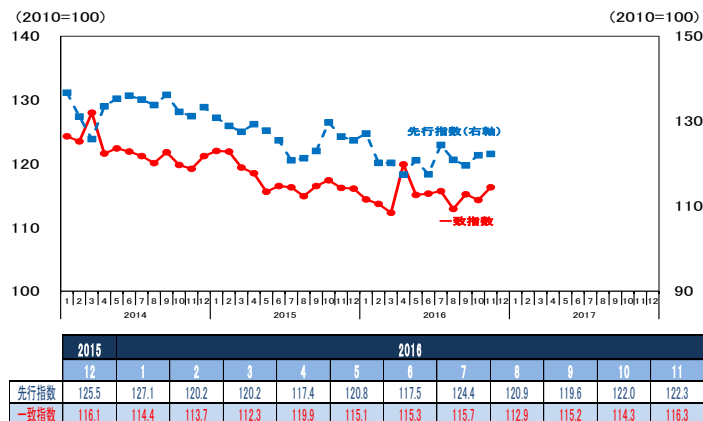
中部圏（長野県）景気動向指数の推移



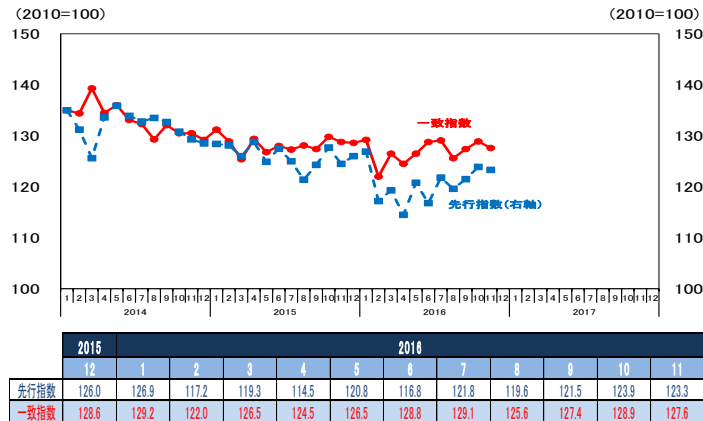
中部圏（岐阜県）景気動向指数の推移



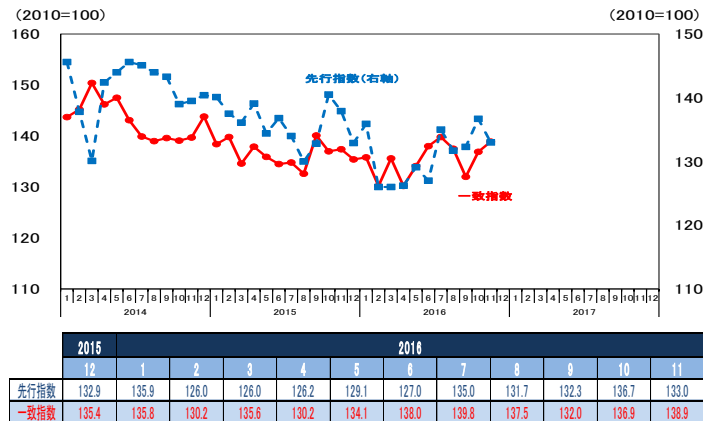
中部圏（静岡県）景気動向指数の推移



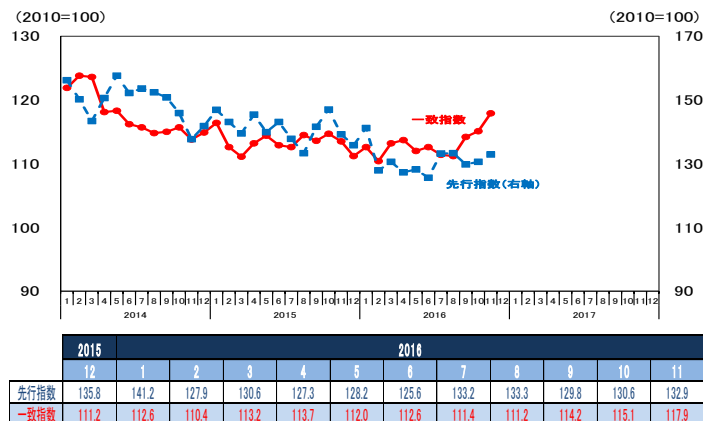
中部圏（愛知県）景気動向指数の推移



中部圏（三重県）景気動向指数の推移



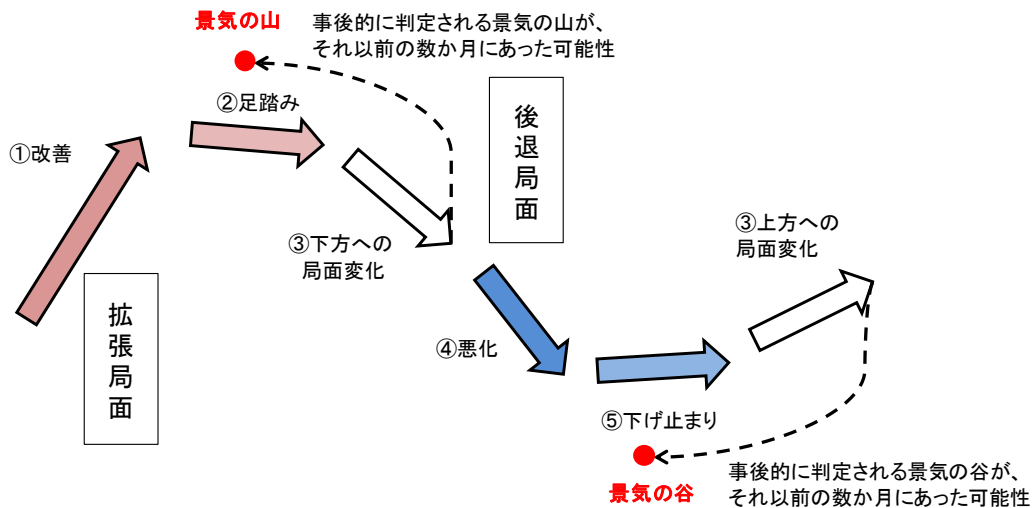
中部圏（滋賀県）景気動向指数の推移



基調判断の基準とイメージ図

景気の現状及び先行きの判断については、内閣府の「CIによる景気の基調判断」の基準と同様の基準を中部圏景気動向指数のCI一致指数及びCI先行指数にそれぞれあてはめている。
 詳細は<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/160511scale.pdf>を参照。

基調判断		定義	基準
①改善		景気拡張の可能性が高いことを示す。	・原則として3か月以上連続して、3か月後方移動平均が上昇 ・当月の前月差の符号がプラス
②足踏み		景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す。	・3か月後方移動平均(前月差)の符号がマイナスに変化し、マイナス幅(1か月、2か月または3か月の累積)が1標準偏差分以上 ・当月の前月差の符号がマイナス
③局面変化	上方への局面変化	事後的に判定される景気の谷が、それ以前の数か月にあった可能性が高いことを示す。	・7か月後方移動平均(前月差)の符号がプラスに変化し、プラス幅(1か月、2か月または3か月の累積)が1標準偏差分以上 ・当月の前月差の符号がプラス
	下方への局面変化	事後的に判定される景気の山が、それ以前の数か月にあった可能性が高いことを示す。	・7か月後方移動平均(前月差)の符号がマイナスに変化し、マイナス幅(1か月、2か月または3か月の累積)が1標準偏差分以上 ・当月の前月差の符号がマイナス
④悪化		景気後退の可能性が高いことを示す。	・原則として3か月以上連続して、3か月後方移動平均が下降 ・当月の前月差の符号がマイナス
⑤下げ止まり		景気後退の動きが下げ止まっている可能性が高いことを示す。	・3か月後方移動平均(前月差)の符号がプラスに変化し、プラス幅(1か月、2か月または3か月の累積)が1標準偏差分以上 ・当月の前月差の符号がプラス





Chubu Region Institute for Social and Economic Research

公益財団法人
中部圏社会経済研究所

本資料に関するお問い合わせは、経済分析・応用チーム（代表 052-212-8790）までご連絡下さい。

公益財団法人中部圏社会経済研究所とは

当財団は、財団法人中部産業活性化センター、社団法人中部開発センター、財団法人中部空港調査会の3団体から理念と事業を継承し、中部圏である中部広域9県（富山・石川・福井・長野・岐阜・静岡・愛知・三重・滋賀県）を事業エリアとする総合的・中立的な地域シンクタンクとして、産業の活性化および地域整備をすすめるため、「広域計画」、「地域経営」、「産業振興」、「航空・空港」を4つの柱として事業を展開しています。

地域や時代のニーズに応え、地域社会の発展に貢献するため、調査研究能力を一層強化し、産学官の連携の中で、中部広域9県という事業エリアを意識して、調査研究をすすめ、広く社会に情報発信しております。

所在地等 〒460-0008
名古屋市中区栄四丁目14番2号 久屋パークビル3階
Tel (052)212-8790 Fax (052)212-8782
ホームページ:<http://www.criser.jp>
E-mail:criser@criser.jp